

あなたの身近でも増えていませんか！？



高山市内では、特定外来生物に指定されている「オオハンゴンソウ」や「オオキンケイギク」という繁殖力の強い植物の生育範囲が拡大しています。その結果、市内に元々生育していた植物が減少し、本来の自然環境が失われつつある場所も増えてきました。高山らしい景観を守るためには皆さんの協力が不可欠です。一緒に防除活動に取り組みましょう！



オオハンゴンソウが少なかった頃の小鳥湿原（平成14年）



近年は、防除活動により
オオハンゴンソウは
減少しています

オオハンゴンソウが繁茂する小鳥湿原（平成23年）

特定外来生物とは？

市内も含め、現在日本には、海外などから持ち込まれた「外来生物（外来種）」が、多数生育・生息しています。そのうち、生態系や人の生活に対して特に大きな影響を及ぼす生き物について、外来生物法で「特定外来生物」に指定され、全国で駆除などの取り組みが行われています。特定外来生物は、飼育や栽培、運搬などが禁止されており、許可なく行った場合には罰則があります。

市内の生き物

市内にもともと
生育・生息している

「在来種」

人間活動によって持ち込まれた**「外来種」**



**【市内に生育・生息する
特定外来生物】**

- ・アレチウリ
- ・オオハンゴンソウ
- ・オオキンケイギク
- ・オオクチバス
- ・コクチバス
- ・チャネルキャット
フィッシュ
(別名：アメリカナマズ)
- ・ブルーギル

特定外来生物 | 令和2年
11月現在 : 156種

特定外来生物の生態系等に係る被害の防止に関する法律
(平成16年6月2日公布)

日本の生態系や農林業、
人の生活に大きな悪影響
を及ぼすおそれがある種

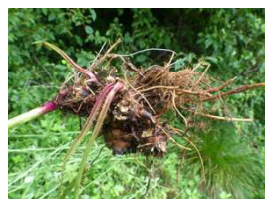
この植物に
注意!

オオハンゴンソウ

北アメリカ原産・キク科・多年生草本



全体の様子



上：葉の形
下：根の形

■形態：

高さは0.5～3m。葉は濃い緑色で深く切れ込み、毛深くざらざらしている。7～10月に中央部が出っ張った黄色い花が咲く。

■生育環境：

道路沿いや畑地、荒地、湿原、^{ひよ}河川敷など。肥沃で湿った場所を好む。

■特徴：

- ・繁殖力がとても強く、大群落を形成する。
- ・種子は土壤中で数年～数十年生き残ることができる。
- ・根が芋状で大きく、再生能力も高い。

■オオハンゴンソウの生活史と防除活動に適した時期



- ・作業に適した時期：7～8月（花が咲くので見つけやすい）
- ・注意が必要な時期：9～11月（種子が散乱してしまう可能性あり）



大型化する前に掘り取るのがオススメ！種が出来ていたら先に花摘みをして、花や根は処分しましょう（P5参照）。

車によって種子が運ばれやすいため、せせらぎ街道や国道158号沿いをはじめ、市内のいたるところで大群落が見られ、駆除が追いついていない状況です。畑の脇や水路沿いなどで見かけたことはありませんか？



この植物に
注意!

オオキンケイギク

北アメリカ原産・キク科・多年生草本



全体の様子



上：葉の形
下：根の形

■形態：

高さは0.3～0.7m。葉は黄緑色で細長くへら状でざらざらしている。5～7月に黄色い花が咲く。

■生育環境：

道路沿いや河川敷など。日当たりの良い場所や、砂や石が多い河原などを好む。

■特徴：

- ・繁殖力がとても強く、大群落を形成する。
- ・種子は土壌中で数年～十数年生き残ることができる。
- ・根は細くて抜けやすいが、再生能力は高い。

■オオキンケイギク的生活史と防除活動に適した時期



- ・作業に適した時期：5～7月（花が咲くので見つけやすい）
- ・注意が必要な時期：8～10月（種子が散乱してしまう可能性あり）



花が散る前に掘り取るのがオススメ！花や根は、放置せずに必ず処分しましょう（P5参照）。

花がコスモスに似て綺麗なため、草刈りなどをした際にあえて刈らずに残されていることがよくあります。また、種が花壇に飛んで知らない間に花を咲かせることもあります。身近な場所に生えていませんか？



防除活動を始める前に



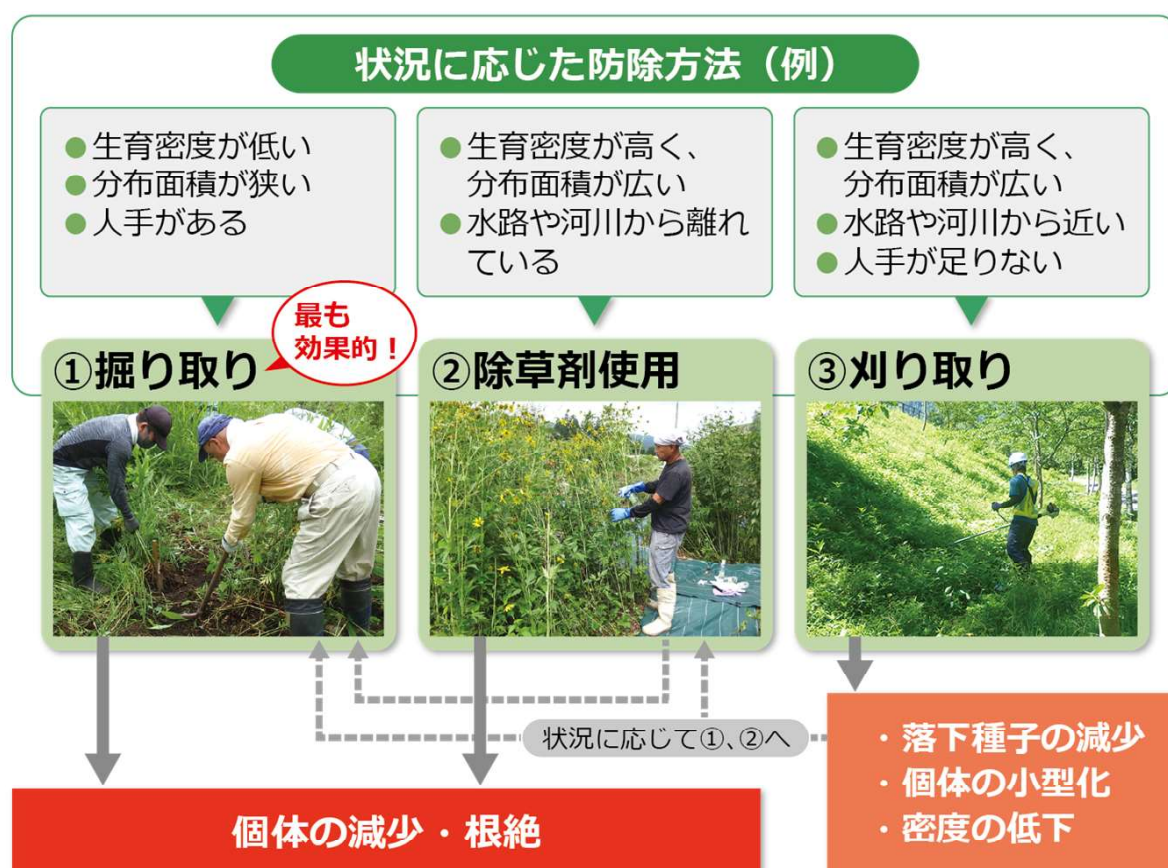
防除活動は、特定外来生物の生育状況などによってさまざまな方法があります。以下を参考に、状況に応じた防除方法を検討・実施してみましょう。

①生育状況などをチェックする

防除活動を行う前に、その場所に生育する特定外来生物（オオハンゴンソウなど）が「どれぐらいの範囲や密度で生育しているか」、「作業場所の水路や河川からの距離」「作業にかけられる手間」などを確認しましょう。

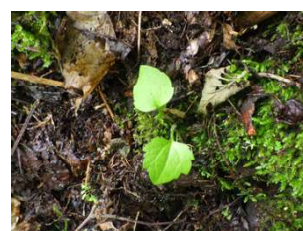
②防除方法を検討する

上記のチェックが終わったら、状況に合わせて防除方法を検討します。根絶には「根からの掘り取り」が最も効果的ですが、高密度・広面積であるほど、継続的な作業が必要となり手間がかかるため、まずは「除草剤使用」や「刈り取り」により生育密度の低下を図った後、「掘り取り」に移行して根絶をめざしましょう。



注意ポイント！

継続的な防除活動により、数年以上生育がなく根絶できたとみられる場合でも、土中で眠っていた種が何かのきっかけで再び発芽することがあります。根絶した後も、時々確認することが大切です。



防除活動時の作業手順



防除方法が決まったら、以下の手順で作業を進めましょう。

①花中央部の種子の様子を確認する

- ・ 種子が落ちそうな場合は、先に花摘みを行う。
※まだ種子が出来ていない、触っても種が取れない場合はそのまま作業を始めても大丈夫です。



②防除作業を行う

[掘り取りの場合]

- ・ 茎から少し離れた場所に^{くわ}鋤などを差し込み、イモ状の根（地下茎）が土中に残らないように掘り出す。
※地下茎が残ると、そこから再生するので注意しましょう。
- ・ 掘り取った根の土を払い、ごみ袋などに入れる。

地下茎の
外周を掘る



[除草剤使用の場合]

- ・ グリホサート系除草剤を準備する。
 - ▶ 除草剤濃度：25倍希釈程度
 - ▶ 塗布する場所：葉や茎
 - ▶ 使用道具：ゴム手袋・スポンジ・軍手・スプレーボトル
- ・ ゴム手袋をはめ、除草剤を染み込ませたスポンジや軍手を使って葉や茎に塗布する（または、除草剤を入れたスプレーボトルで1本ずつ葉や茎に散布する）。
※水路沿いなど、薬剤が河川に流出する可能性がある場所では除草剤は使用しないでください。
※周辺に生育する在来植物を枯らさないように注意しましょう。



[刈り取りの場合]

- ・ 鎌や草刈り機を使用して、地上からできるだけ低い位置で刈り取る。
- ・ 茎や葉はその場で乾燥・枯死させる。
※花を摘んだ際は資源リサイクルセンターでの処分が必要です。

根元近く
で刈り取る



③花や根は処分する

- ・ 資源リサイクルセンターに持ち込んで処分する
（持ち込む前に環境政策推進課まで連絡ください）。
※ごみステーションでは回収できません。資源リサイクルセンターに搬入してください（他のごみは混ぜないでください）。



効率的に防除活動を行うためのポイント



オオハンゴンソウ・オオキンケイギクの生育範囲をこれ以上広げないために、以下のポイントに注意して防除活動に取り組みましょう。

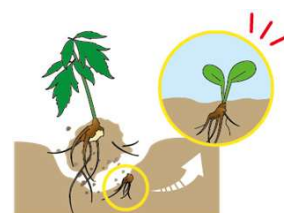
①種を落とさないで！

オオハンゴンソウやオオキンケイギクの種は、数年～十数年もの間、発芽せずに土壌の中で生き続けることができます。作業時には、種が落ちないように注意するとともに、できるだけ開花前に作業しましょう。



②根はできるだけ残さないで！

オオハンゴンソウやオオキンケイギクは、根からの再生能力もとても高い植物です。イモのような地下茎が土中に残らないように丁寧に掘り取りましょう。



③花や根はごみ袋に入れて処分！

せっかく刈り取った花や掘った根をそのまま土の上に放置すると、そこから芽が出て再生してしまいます。必ず袋に入れて処分しましょう（P5参照）。

※ごみステーションでは回収できません。資源リサイクルセンターに搬入してください（他のごみは混ぜないでください）。



④まずは高い所の群落から作業しよう！

種は高い場所から低い場所へと広がっていきます。高低差のある場所で作業をする場合は、最も高い所から作業を行うようにしましょう。



⑤複数年にわたる継続的な防除活動が大切！

生育歴が長い場所ほど、土の中にたくさんの種が残っていると考えられます。毎年チェックしながら、根絶を目指しましょう。



継続的な活動により
個体数が減少

その他注意事項

作業を行うにあたって、事故などに遭わないために以下にも注意しましょう。

- ▶ 作業するところ以外は踏み荒らさない。
- ▶ こまめに水分補給し、熱中症に注意する。
- ▶ 道路沿いで作業する場合は、通行する車両に気をつける。
- ▶ 河川沿いや林縁部など、藪が多い場所ではハチの巣があるかもしれないので注意する（ハチが飛んでいる場合は特に気をつける）。